

81 明治10年4月23日 菊池長閑宛

第四号 四月廿三日 (長閑注記)

第二号達セリ三人写の写真顔計りとの仰なれ共貌計り三ツによ  
こりとあるハ余り面白からぬ故全身を模し取たり那珂先生に托  
して呈す去月二十二日ハワシントン氏の誕生日なりしか或人に

招かれ往たれば多人数の客来なりし其内の妻君私を延て一人々々に私の名を告向の名前を私に為知たり是ハ此国の風にて自分から私ハ何の某て五座ると名乗らずに朋友の媒を待なり兼て知た人か居は即ち何誰君如何ニ五座るとか拜顔致して誠に喜しいか云て直に手を握合なり其跡ハ誰ても構なく一見旧識の如に咄し合を風とす片隅に引込み兼ての知り合とのみ語る人を付合を知らぬ田舎者と名付物識顔て口を閉て居も悪く初て逢た人たからと思て遠慮して居も宜らず真事目腐て座興を醒さぬ様するをよしとす暫ありて食堂に下り玉ひと主人の多分妻君が主なる勅に主人となり勅なり因て諸客皆座を立ち男ハ必ず女と連れて階を下るなり故に先男ハ女に向ひ私ハあなたを連れ申ましようかと云は女ハ男の脇に取付並ひ行く既に食卓に至れハ銘々の名を書たる札あり其を見て各座を占るに当り先己の連行たる女を座せしめ而後座するを法とす食事中も何か欲くないか何を食はんかと能女に気を付て遣るなり食畢りて主人先起ち客随ふ復各男女並行若し階子段狭けれハ下るに女先立ち昇るに男前立ハ当国の礼欧州とハ異なりと知へし跡ハ四方山の物語り或ハ楽器を弄ひ謡歌を唱ふ是ハ上手の客に乞て遣らすなり又ハかるたを遊び又ハ舞ひ又ハ色々の小兒遊びをするなり譬エハ物を隠して其を索し当しむる小楽器を音高く弾井ハ尋る人ハ物の近に在り音の低き井ハ物より遠りたるにて音の高成た近所を探らねハ成らぬなり或ハ諸人の知て居る正成とか高尾とか人を極め置或人をして其を当しむ此人ハ色々の問男か女か何歳頃の人の類を諸客に懸一人に一人に問多問事不成問れたる人に何分向に分らぬ様に本統の答をするなり一返問廻りて当兼れハ又廻り直へし或ハ時口を撰ひ「犬も歩

行ハ棒に当る」とすれハ矢張一人何と云ふ事なし好勝手の間を懸るに一番に問れたる人「犬も」と云ふ事を其答中に入て返事セねはならず二番の人「歩行ハ」を入れて宜様答ねはならず四人以上なれハ又「犬も」から始めて順々に答るなり問人ハ能其答を覚居て考合セ何と云ふ時口たろう彼と云ふ時口たろうと云当ねは成ぬものとす又ハ椅子を人数前より一ツ少なく一行に並べ一ツハ右へ向ケ其次の椅子ハ左に向ケ並ぶるなり然後諸人一行に成り並ひたる椅子を廻る事の如し一人楽器を弾諸人其調子に連て行其人楽器を弾止た時速に椅子に腰懸をよしとす椅子ハ人数より一ツ少なき故腰掛兼るものあり其人ハ行列より除かれ椅子をも一ツ減し終に一椅子二人の人に成迄遣り其時勝敗を決する故最終に腰掛たる人ハ勝とす是ハ仏教ならば善光寺参りとか釈迦詣とも云ふ名の遊びなり其他何と云ひ何と曰ふ遊び事無数なり此日ハ主人諸客に小さき銅の「マサギリ」字ハ忘れ「斧」を与たり是ハワシントン氏の古事なり氏小兒たりし時「マサギリ」斧を以父の殊に賞翫したる桜の木を伐殺したり後父桜樹の死たるを見て氏に問て曰く樹を枯したるハ誰の所為そと氏初め詐り答んとしたれ共兼て母の教エありたるを守り我所業なりと泣答たり父其正直なるを感じ曰くお前此通正直にて「詐」嘘詐りを云ねは我百千の愛樹を失ふとも聊悔くないと誉たる事あれハなり去る一日ハ「四月馬鹿日」と云日にて諸人互に欺し合戯弄し合ふ日なり紙入に細い糸を付「置」道に投置拾んとする人ある時糸を引類昨夜ニウヨルクに大火あり何ても数百人の死人ありしと云ふ君知すやと云ふ井夫ハ丁度も知なした何処の辺か焼たかと驚

けハ一番喰せられる等の事なり今年ハ日曜日に当りし故余り馬鹿もなかりし或ステーションの前に紙入一ツ落てありしか其辺に居たる者共「四月馬鹿者」となるを嫌ひ手を付さりしに客を乗せ来たりし馬車別当ハ之を拾ひ開き見れハ金札数枚ありたり今迄別当ハ乗せられたらんと嘲り笑居たる者共此を見て己等の拾さりしを悔頭を搔たりと云ふ此馬鹿日の事ハ去年も申上たるかに覚居共又爰に陳す去る十二日ハ断食日とて昔ハ諸人断食なし神に祈其罪科を掃除する事殆と大晦日菟に同しかりしも今ハ名而已尤癡固たる奴ハ断食するならんにて常よりハ馳走もよし余計に食位なり随分此地にも可笑古風旧俗残り居るもの多し今月初にハ雪降たれ共即今ハ春景色にて日も最長閑なり此地にてハ春秋至て短桜桃梅李一時開氣候故最今に夏か直来るへし舅家并諸叔伯母君に伝言を乞ふ青木か男児を設たると聞及へり祝賀の詞を伝玉はん事を希ふ

御尊父様

武夫拝

(長閑注記?)

「六月七日達シ日数四十五日

返書第六号七月三日出し」